

【北海道】2020年2人から2023年17人、研修医急増に院長も驚く-村上英之・足寄町国民健康保険病院院長に聞く◆Vol.1

救急車は年間250台、医師4人「研修医は貴重な戦力」

2023年10月20日（金）配信 m3.com地域版

足寄町国民健康保険病院（足寄郡）は2023年に17人の研修医を受け入れた。その狙いや病院としてのメリットなどを院長の村上英之氏に聞いた。（2023年9月12日インタビュー、計2回連載の1回目）

▼第2回は[こちら](#)（近日公開）



村上英之氏

——研修医を積極的に受け入れている理由やメリットを教えてください。

当院のある足寄町は、最寄りの都市の帯広まで高速道路で1時間前後かかるへき地です。当然、医師の確保も課題になってきます。1日の外来患者数は大体80人から90人ほど。もちろん病棟に入院している方々も診なければなりませんし、救急が来たらその対応もしなくてははいけません。救急車の受け入れは年間250台ほどです。この規模で常勤医師は4人で回していますので、慢性的な人手不足の状態です。ここに研修中といえど医師が1人加わるだけで、救急の初期対応をお願いしたり診療を任せたりできるので、とても助かるのです。それに、高齢者の方々が 많이 町ですから、若い人がいるだけでパッと現場が明るくなりますし、将来的に地域医療に関心を持ってくれる医師が1人でも増えてほしいという思いもあります。

——2020年には2人だった初期研修医の数が2021年には9人、2022年には12人、今年は17人と大幅に増えています。これはなぜでしょうか。

実はなにか画期的な施策で増えたのではなく自然に人数が増えていったので、私自身も驚いているというのが素直な感想です。とはいえ、何もなかったわけではなく、もともと旭川医科大学や札幌医科大学の学生の方々の実習を

当院で受け入れていて、その実習生が研修医として当院に来てくれるというケースもあります。実習生や研修医の方々が「あの病院は良いよ」と口コミをしてくれたのかもしれないね。



研修医や医学生とのカンファレンス風景

——研修の流れを教えてください。

当院で行っているのは初期臨床研修の中の地域医療研修に該当するもので期間は4週間です。基本的には外来対応と救急の初期治療などを担当してもらいます。それに検診の結果説明などもやってもらっていて、とにかく患者さんと接する機会を多く設けるようにしています。あとは、まず自身の頭で考えてもらうようにしています。患者さんの主訴を聞いて、自身で類推して、診断する。もちろん、適宜アドバイスをしますが、そのときも、まずは研修医の方の意見を聞いてから、私の考えを述べるようにしています。すぐに答えを教えてしまっただけでは、その医師の成長を妨げてしまいますから。

——最近の研修医の様子を見て、率直な感想をお聞かせください。

自分が研修医だった頃と比べてモチベーションも高いですし知識も豊富だと感じています。とはいえ、研修中ですから、持っている知識の生かし方に関しては慣れていない部分があります。ですから、なるべく多くの患者さんと接してもらって、経験を積んで、持っている知識を臨床に生かしてほしいと思っています。

——研修医にとって、足寄町国民健康保険病院で働くメリットはなんですか。

年間250台ほどの救急車を受けている一方で、リハビリなどの慢性期の患者さんもたくさん抱えています。ですので、急性期と慢性期の両方が学べるというのが一つ。また、人手が少ないので、看護師やケアマネジャーといったコメディカルの方々との連携もうまく取らなければなりません。そういう面ではチーム医療を学べるというのも当院の魅力だと考えています。また、高齢化地域ですので地域の方々のヘルスリテラシーは十全とはいえません。そのため、健診業務や訪問診療の際に病気にならないための生活習慣の改善方法などをお伝えしており、そうした業務に同行していただくことで、保健活動の経験も積めるということもメリットの一つだと思います。

——研修医には、どのように成長してほしいですか。

当院に研修に来た医師たちも、将来的には専門性の高い分野に進むのだと思います。それ自体、決して悪いことではありませんし、否定はしません。しかし、その道を極めようとするのは、ときとして、視野を狭める原因にもなります。いろいろな先生方とお会いしてきた経験上、スペシャリストと呼ばれる先生は、素晴らしいジェネラリストでもありました。専門的な道に進むにしろ、全体を俯瞰して捉えられる視野や他分野からも学び取ろうとする柔軟性も養ってほしいと思っています。

——研修医の受け入れについて、今後の展望はありますか。

まずは、なるべく多くの方に来てもらいたいというのがあります。当院で特別なことが教えられるわけではありませんが、一緒に考えよう、一緒に学ぼうという姿勢で受け入れています。当院で、地域医療やチーム医療について私たちと一緒に学びたいという医師の方は、ぜひ声をかけてもらえればと思います。

◆村上 英之（むらかみ・ひでゆき）氏

1993年に札幌医科大学を卒業後、第二内科に入局。1997年に米国サウスカロライナ医科大学に留学。2003年に道立江差病院循環器科医長、2004年に斗南病院循環器科科長。2006年に厚沢部町国民健康保険病院の院長を務めたのち、2009年に足寄町国民健康保険病院の院長に就任。

【取材・文＝森祐一（MonSanAuthors）（写真は病院提供）】

記事検索

ニュース・医療維新を検索

